

中学校における展開例



第1学年「心身の機能の発達と心の健康」異性の尊重と性情報への対処 (保健体育科 保健分野)

1. 単元名 異性の尊重と性情報への対処

2. 単元の目標

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 心身の機能の発達と心の健康について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

小学校では、体の発育・発達の一般的な現象や個人差、思春期の体つきの変化や初経、精通などを学習している。また、心も体と同様に発達し、心と体には密接な関係があること、不安や悩みへの対処などを学習している。

ここでは、健康の保持増進を図るための基礎として、心身の機能は生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することについて理解できるようにする必要がある。また、これらの発達の仕方とともに、心の健康を保持増進する方法についても理解できるようにするとともに、ストレスへの対処ができるようになる必要がある。さらに、心身の機能の発達と心の健康に関する課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要である。

このため、本内容は、年齢に伴って身体の各器官が発育し、機能が発達することを呼吸器、循環器を中心に上げるとともに、発育・発達の時期や程度には個人差があること、また、思春期は、身体的には生殖に関わる機能が成熟し、精神的には自己形成の時期であること、さらに、精神と身体は互いに影響し合うこと、心の健康を保つには欲求やストレスに適切に対処することなどの知識及びストレスへの対処の技能と、心身の機能の発達と心の健康に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・ 学習活動
第1時	◆体の発育・発達	○			<p>○体の発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育する時期があること、また、その時期や程度には、人によって違いがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを知る。 ・身長や体重が急に発育する時期について知る。 ・思春期において、これまで見られなかった体の変化や男女の特徴が現れることについて知る。 ・各器官の発育・発達の時期や程度に個人差があることについて知る。 ・学習のまとめをする。
第2時	◆呼吸器・循環器の発育・発達	○	○		<p>○体の発育・発達には、呼吸器系、循環器系などの機能が発達する時期があること、また、その時期や程度には、人によって違いがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児と自分の呼吸数と心拍数について比較する。 ・学習のねらいを知る。 ・呼吸器及び循環器の発育・発達について知る。 ・呼吸器・循環器の機能の発達と個人差について知る。 ・呼吸器・循環器の機能から、運動習慣との関係について考える。 ・学習のまとめをする。
第3時	◆生殖機能の成熟①	○			<p>○思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習を振り返り、思春期における男女の体の変化について思い出す。 ・学習のねらいを知る。 ・思春期の体の変化とホルモンについて知る。 ・男子の生殖機能の発達について知る。
第4時	◆生殖機能の成熟②	○			<ul style="list-style-type: none"> ・女子の生殖機能の発達について知る。 ・受精と妊娠について知る。 ・学習のまとめをする。
第5時 (本時)	◆異性の尊重と性情報への対処	○			<p>○身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的関心をもったことがある人の割合に関する資料から気づいたことを話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・性的関心の高まりと異性の尊重について知る。 ・性情報への対処について知る。 ・事例を基にどのようにアドバイスをしたらよいか考える。 ・学習のまとめをする。
第6時	◆知的機能と情意機能の発達	○	○		<p>○心は、知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉えられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達すること。</p> <p>○知的機能については認知、記憶、言語、判断など、情意機能については感情や意思などがあり、それらは人や社会との様々な関わりなどの生活経験や学習などにより発達すること。</p> <p>○社会性については、家族関係や友人関係などを取り上げ、それらへの依存の状態は、生活経験や学習などの影響を受けながら変化し、自立しようとする傾向が強くなること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生の時の自分と今の自分を比較（知的・情意面）する。 ・学習のねらいを知る。 ・知的機能の発達について知る。 ・情意機能の発達について知る。


				<ul style="list-style-type: none"> ・心の働きについて考える。 ・学習のまとめをする。
第7時	◆社会性の発達と自己形成	○		<p>○自己形成については、思春期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりするとともに、物の考え方や興味・関心を広げ、次第に自己を認識し自分なりの価値観をもてるようになるなど自己の形成がなされること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に遊ぶ時のルールの決め方や捉え方について、年齢によってどのように変化するか話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・社会性の発達と自立について知る。 ・自己形成について知る。 ・学習のまとめをする。
第8時	◆心と体の関わり	○		<p>○精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていること。また、心の状態が体にあらわれたり、体の状態が心にあらわれたりするのは、神経などの働きによること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張した時の体の変化について考える。 ・学習のねらいを知る。 ・心の状態が体に現れることについて知る。 ・体の状態が心に現れることについて知る。 ・学習のまとめをする。
第9時	◆欲求と欲求不満	○	○	<p>○心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であること。</p> <p>○欲求には、生理的な欲求と心理的、社会的な欲求があること、また、精神的な安定を図るには、日常生活に充実感をもてたり、欲求の実現に向けて取り組んだり、欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けたりすることなどがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～したい」「～が欲しい」と思うことについて考え、グループで分類分けを行う。 ・学習のねらいを知る。 ・様々な欲求について知る。 ・欲求への対処について考える。 ・学習のまとめをする。
第10時	◆ストレスへの対処と心の健康①	○	○	<p>○ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なること、個人にとって適度なストレスは、精神発達に必要なものであること。</p> <p>○ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること、ストレスの原因についての受け止め方を見直すこと、友達や家族、教員、医師などの専門家などに話を聞いてもらったり、相談したりすること、コミュニケーションの方法を身に付けること、規則正しい生活をするなどいろいろな方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスがかかる場面において、自分の考えをまとめる。 ・学習のねらいを知る。 ・ストレスについて知る。 ・ストレスの影響について考える。 ・学習のまとめをする。
第11時	◆ストレスへの対処と心の健康②	○	○	<p>○リラクセーションの方法等を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの対処方法について考える。 ・リラクセーションの方法を取り上げ、実際に行ってみる。 ・学習のまとめをする。

5. 展開例(5/11)

(1) 本時の目標

身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。(知識)

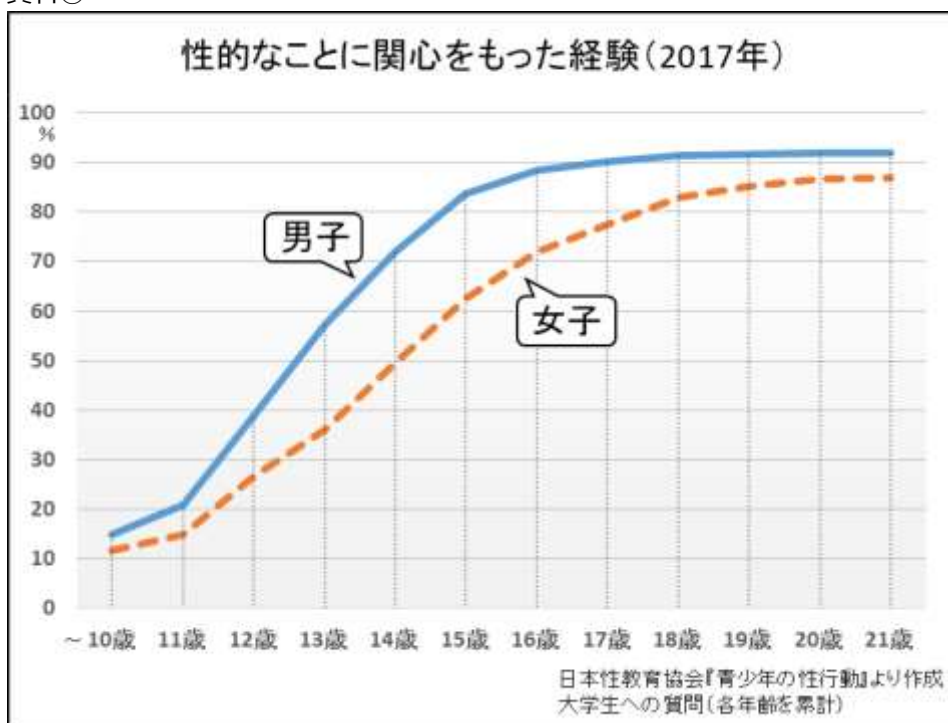
(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>1 資料①から中学生期の気持ちの変化について考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9;">性的関心をもったことがある人の割合に関する資料を見て分かることはあるかな？</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢とともに割合が多くなっている。 ・中学生期の増加が大きくなっている。 ・男子の方が割合が多い。等 <p style="background-color: #00FFFF;">思春期になると異性への関心が高まったり、強い性的欲求(性衝動)が起こったりすること。</p>	<p>○本時の内容として、自分の考えを表現することが難しい生徒がいることも考えられるため、生徒一人ひとりの様子を見ながら、配慮及び支援していく。</p> <p>○思春期には、異性への関心が高まったり、強い性的欲求が起こったりすることを知らせるとともに、こうした性意識の変化は自然なことであり、その感じ方には個人差があることを伝える。</p>
展開	<p>2 学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">性への関心が高まる思春期に気をつけることは何でしょう。</p> </div> <p>3 資料②から中学生の性情報の入手方法について知り、気をつけることについて考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9;">資料②を見て分かることはあるかな？</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人や先輩からの入手方法が一番多い。 ・男女によって違いがある。 ・いろんな入手方法がある 等 <p style="background-color: #FFDAB9;">資料③「インターネットのウェブサイトに関係した事件の被害者のうち、小学生、中学生、高校生の数」のグラフを見て気づいたことを書こう</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の被害が多い。 ・女子の被害が多い。 <p style="background-color: #FFDAB9;">どうしてインターネットのウェブサイトに関係した被害にあうのだろう。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にも相談していない。 ・正しい情報なのかの判断ができない。 <p style="background-color: #00FFFF;">性情報に適切に対処するためには、正しい情報を選択し、適切な行動をとることが大切であること。</p>	<p>○中学生の性情報の入手方法についての資料を提示し、読み取れることを発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">生徒の自由な発想を大切にしながらも、話題が飛躍しないように進めましょう！</p>  </div> <p>○インターネットによるトラブルの原因について考え、性情報に適切に対処するためには、正しい情報を選択し、適切な行動をとることが大切であること。</p> <p>○入手した性情報について、その情報が本当に必要なものなのか、信頼できる情報なのかを判断する必要があることについて考えさせる。</p>

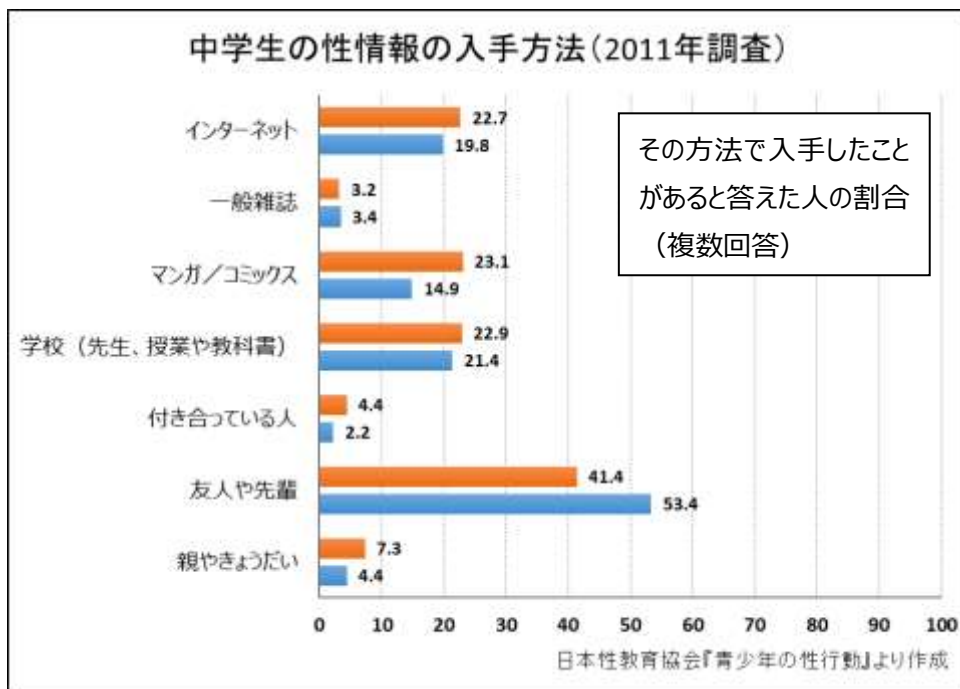
	<p>4 資料②「中学生の性情報の入手方法」から、正しい判断ができなかった場合、どのような問題が引き起こされるのか考える。</p> <p>性情報を入手し、正しい判断ができなかった場合、どんな問題が起こるだろうか。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩み事が増える。 ・インターネットから犯罪に巻き込まれてしまう。 ・自分勝手な思い込みで相手を傷つけてしまう。 ・望まない妊娠を招いてしまう。 <p>5 事例を基に、アドバイスの内容を考える。</p> <p>友だちのAさんにアドバイスをしよう。</p> <p>事例</p> <p>インターネットのサイトで知り合った人物と会おうとしている友人がいる。</p> <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、ロールプレイング方式で行う。 ・グループで代表者を決め、クラス全体で内容を共有する。 	<p>○正しい判断ができないと、どう困るのか、何が問題なのかについて考えさせ、適切な行動をとることの大切さについて理解させる。</p> <p>○本時の授業で学習した内容から、具体的な場面において活用できるようにする。</p> <p>○適切な行動の選択のために、保健所や教育相談センターなどの信頼できる情報源から必要な情報を得たり、医師などの専門家に相談することも有効であることを伝える。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 学習のまとめを行う。</p> <p>身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となること。</p> <p>これから実践していきたいことを学習カードに記入しよう。</p>	<p>◆【知識・技能】</p> <p>身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・学習カード)</p>

(3) 資料等

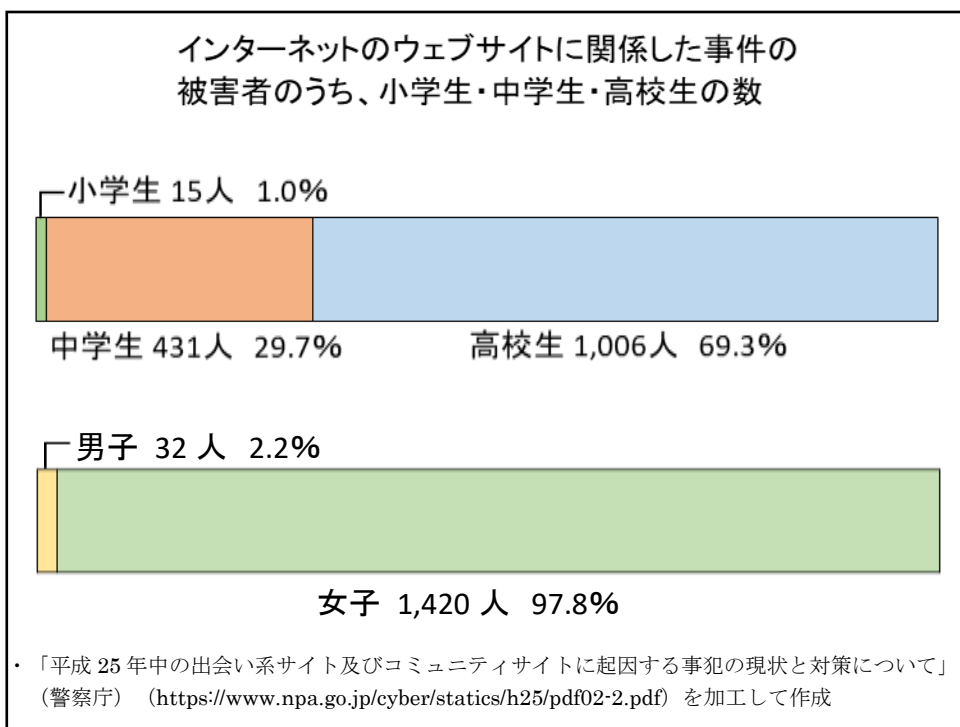
資料①



資料②



資料③



中学校における展開例



第2学年「幼児の生活と遊びを知ろう」(技術・家庭科)

1. 題材名 「幼児の生活と遊びを知ろう」A 家族・家庭生活 (2)幼児の生活と家族

2. 題材の目標

- (1) 自分の成長と家族や家庭生活との関わり、幼児の発達の生活の特徴、子どもが育つ環境としての家族の役割、幼児にとっての遊びの意義、幼児との関わり方について理解する。(知識及び技能)
- (2) 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 題材について

この題材では、幼児の心身の発達とそれを支える生活や、幼児期における周囲の人との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性が分かり、幼児にふさわしい生活を整える家族の役割について理解できるようにする。

幼児の発達の特徴については、身体の発育や運動機能、言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要について理解できるようにする。その際、認知については、ものの捉え方について扱い、幼児は自己中心的に物事を考えたり、生命のないものに命や意識があると捉えたりするなどの特徴があることを理解できるようにする。

幼児の生活の特徴については、幼児は遊びを中心とした1日を過ごしており、昼寝をするなど全体の睡眠時間が長く、3回の食事以外にも間食をとるなどの生活リズムを持っていることを理解できるようにする。また、食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔などの基本的な生活習慣については、生活の自立の基礎となるので、幼児の心身の発達に応じて、親をはじめ、周囲の大人が適切な時期と方法を考えて身に付けさせる必要があることを理解できるようにする。さらに、あいさつや安全のルールなど、人との関わりや社会のきまりなどについても、適切な時期と方法を考えて身に付けさせる必要があることにも触れるようにする。

この学習を通して、幼児の発達の特徴を正しく理解し、幼児とのよりよい関わり方を工夫することで、自分の幼児期を支えていた家族や周囲の人々の思いを改めて考えたり、多くの人々との関わりがあって今の自分があることにも気付いたりすることができるであろう。また、子どもを守る条約や法律とも関連させ、幼児は社会全体で守られるべき存在であることについても、幼児の生活の模擬体験や交流などの体験を通して考えを深めていけるようにする。

4. 指導計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆中学生の自分と幼児	○	○	○	○自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて理解する。 ・既習内容の家族・家庭の機能（子どもを育てる）について確認する。 ・写真や映像、インタビュー等から、幼児期に周囲の人がどのように関わっていたのかを全体で共有する。 ○幼児とのふれ合い交流会で幼児との関わり方について問題を見だし、課題を設定する。 ・前年度までの交流会の写真や映像から気付いたことを発表する。 ・ふれ合い交流会で幼児とよりよく関わるための課題を設定する。
第2時	◆幼児の生活と遊びを知ろう	○		○	○幼児の体の発育、運動機能の発達の特徴を理解する。 ・写真や映像、実物資料（服、絵、おもちゃ、生活の小物）、体験等から、幼児の体の発育や運動機能の特徴を考え、話し合う。 ・幼児の視覚や歩行を体験し、幼児の体の発達の特徴を理解する。
第3～4時		○			○幼児の言語、認知、情緒、社会性の発達の特徴を理解する。 ・幼児の写真や映像資料から、そのときの幼児の気持ちを考え、情緒の発達について話し合う。 ・ロールプレイングを通して、幼児のものの捉え方や人との関わり方について気付いたことをまとめる。 ・幼児に関わる映像を見たり、資料を調べたりして、幼児の言語、認知、情緒、社会性の発達の様子を年齢ごとに整理する。
第5時		○			○子どもが育つ環境としての家族の役割や幼児の一日の生活について理解する。 ・基本的な生活習慣を身に付けるときの言葉かけや環境の整え方についてロールプレイングを行い、家族の役割についてまとめ、全体で共有する。 ・社会的な生活習慣の習得を支える周囲の人々の役割についても理解する。
第6時		○		▼	○幼児にとっての遊びの意義を理解し、遊びの意義を踏まえた幼児との関わり方を考える。 ・幼児期の遊びを思い出し、どのような発達を促すのかを考え、遊びの意義についてまとめる。 ・幼児の発達に応じた遊びやゲーム、おもちゃを考え、ふれ合い交流会での内容を決める。 ・幼稚園の先生の絵本の読み聞かせや幼児との関わり方について観察（動画視聴など）し、気付いたことを交流する。
第7時（本時）	◆関わり方を工夫して幼児と交流しよう		○	○	○幼児の発達の特徴を踏まえた幼児との関わり方や遊び方について考え、ふれ合い交流会の実践計画を工夫する。 ・グループごとに交流会でのふれ合い活動を考え、実践計画を立てる。 ・グループごとにふれ合い活動で行う遊びのシミュレーションを行い、実践計画を見直す。
第8～9時		○	○		○ふれ合い交流会で幼児とふれ合い体験を行い、幼児を観察したり、一緒に活動したりすることを通して、幼児との関わり方を工夫することができる。 ・交流のねらい、グループや自分の課題を確認し、幼児の発達の特徴を考えた交流を行う。幼児一人ひとりの個性を尊重した関わり方を考える。 ・実践計画に沿って、幼児の行動や表情を観察したり、安全を考えて一緒に遊んだりする。 ・困ったことが起きた場合は、グループの仲間や周りにいる大人に相談する。
第10時		○	○	▼	○幼児とのふれ合い交流会を振り返り、観察したことをまとめたり、発表したりすることができる。 ・ふれ合い交流会を振り返り、幼児の特徴について交流する。 ・異なる年齢の幼児を担当したグループと交流し、発達の特徴についてまとめ、発表し合う。


第 11 時			○	<p>○幼児とのふれ合い交流会を振り返り、実践を評価したり、改善したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせや幼児との関わり方で、うまくできたこと、困ったことなどの課題を発表する。 ・実際に困った例について、どのように対応すればよかったのかをグループ内で意見交流しながら考え、発表し合う。
第 12 時			▼	<p>○自分と幼児とのこれからの関わり方について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしている方や子育ての支援を行っている方をゲストティーチャーに招き、話を聞く。 ・これから幼児とどのように関わっていきたいか、学習したことをもとに自分の考えをまとめる。

5. 展 開 例 (7/12)

(1) 本時の目標

- ・幼児とのよりよい関わり方について考え、幼児との関わり方を工夫、改善することができる。

(2) 展開 □ : ねらい □ : 学習内容 □ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<div style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児の発達の特徴を振り返ろう</p> </div> <p>幼児の身体の発育、運動機能の発達の特徴について学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 語文から 2 語文、3～4 語文へ ・ 情緒の表現がコミュニケーション ・ 身長に対する頭の割合が大きい ・ ものにも命や心がある ・ 遊びの中で社会性が育つ。 ・ 視野がせまい 	<p>○幼児の言葉、認知、情緒、社会性、運動機能の発達の様子など、前時までにまとめた資料で確認する。</p>
	<div style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習のめあてを確認しよう</p> </div>	<p>○幼児たちとどのような交流をすることがよいか、交流のイメージをもたせるようにする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児との関わり方について考え、幼児の発達や特徴を意識した交流計画を考えよう</p> </div> <p>幼児との交流を行うにあたって、不安なことや心配なことを共有し、学習課題を設定する。</p>	
	<div style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児の発達や特徴を考えた関わり方を考えよう。</p> </div> <div style="background-color: #00FFFF; padding: 10px;"> <p>モデルケースで場面設定をし、グループごとに対応を考える。</p> <p>【例】①読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手の話にすぐに反応する ・ すぐに飽きてしまう ・ 聞いている隣りの子と遊んでしまう <p>②ボール遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを取り合っけんかする ・ ひとりだけで遊ぶ ・ 友達とぶつかって泣いている <p>③おもちゃ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか作ろうとしない ・ 話をきかない ・ 中学生にすぐ甘える ・ ちがうことをしている </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼稚園では、「嫌な気持ちになる触り方」について丁寧に指導していることを伝え、身体接触がある場合はどのような対応がよいかを考えさせる。</p> </div>  <p>○交流する幼児たちの情報が少ないので、いろいろな場面や反応を想定して具体的に対応を考えさせるようにする。</p>

<p>個人で対応を考える。 グループで意見交流をしたり、ロールプレイングで実際に活動したりして、個人で考えた関わり方を共有する。</p> <p>グループでの話し合いを踏まえ、幼児との関わり方を「言葉がけ」や「行動」の視点から改善し、実践計画を見直そう。</p> <p>言葉がけ…ゆっくり、はっきり話す。声の大きさも工夫する。 全体への声かけと個人への声かけを使い分ける。 指示は短く、わかりやすく伝える。 説明を工夫する。間をとって伝える。 上手にできたらたくさんほめる。 失敗しても怒らない。</p> <p>行 動…目線を合わせる。表情をつけて聞く。相づちを打つ。 話し手に注目させる工夫を考える。 どうして幼児がその行動をとるのか気持ちを考える。 幼児との距離を考える。 紙芝居（絵）を準備して説明する。 幼児のつぶやきを聞いて、臨機応変に対応する。 など</p> <p>今日の学習を振り返り、次の学習の見直しをもとう。</p> <p>今日の学習課題に沿った振り返りを行う。</p>	<p>○グループごとの話し合いでは、幼児の発達の特徴を捉えているか、幼児の思いに寄り添った関わり方になっているか、をアドバイスし合うようにする。</p> <p>○グループでの活動計画や分担、時間配分などを見直し、具体的な改善策やよりよい関わり方を考えさせる。</p> <p>◆幼児との関わり方について、幼児の心身の特徴や年齢による発達の違い等の視点を考慮し、幼児への言葉がけや行動の面から改善している。 (思考・判断・表現)</p> <p>○次時は実際に交流を行うことを確認し、自分のめあてを考えるようにしておく。</p>
---	---

(3) 資料等 ・ 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編

6. 他教科との関連

・ 社会（公民）法の意義の理解

「子どもを守る条約や法律」①児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）

- ②児童憲章前文
- ③児童福祉法総則
- ④日本国憲法

中学校における展開例



第3学年「健康な生活と疾病の予防」感染症の予防 (保健体育科 保健分野)

1. 単元名 感染症の予防

2. 単元の目標

- (1) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解することができるようにする。(知識)
- (2) 感染症の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 感染症の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

病原体が主な要因となって起こる病気の予防については、小学校体育科保健領域で学習している。それらを踏まえて、ここでは、病原体が主な要因となって発生する感染症、発生源、感染経路、主体への対策による感染症予防について理解できるようにする必要がある。また、感染症の予防に関する課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要である。

本単元では、感染症の予防について理解させることにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆感染症	○	○		○感染症は、病原体が主な要因となって発生し、適切な対策を講じることによりリスクを軽減することができること。 ○様々な環境や主体の抵抗力などの条件が相互に関係する中で、病原体が体に侵入し、感染症が発病すること。 ・インフルエンザに感染する原因について考える。 ・学習のねらいを知る。 ・国によって流行する感染症が違うことについて考える。 ・病原体の種類ごとの感染経路を調べ、感染症が発病することについて知る。 ・本時の学習のまとめをする。
第2時	◆感染症の予防	○			○感染症の多くは発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。 ○感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であること。


				<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザの予防法について話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・感染症の予防方法について知る。 ・自分が感染症にかかった場合に取りるべき行動について考える。 ・感染症にかかった場合の対応について知る。 ・本時の学習のまとめをする。
第3時 (本時)	◆ 性感染症の予防	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○性感染症の疾病概念や感染経路や、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があること。 ・性感染症報告数のグラフを見て気付いたことを発表する。 ・学習のねらいを知る。 ・性感染症の疾病概念や種類を知る。 ・性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。 ・本時の学習のまとめをする。
第4時	◆ エイズの予防	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○エイズの疾病概念や感染経路や、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があること。 ・病気の特徴から病名を考える。 ・学習のねらいを知る。 ・HIVの感染経路から、予防方法について知る。 ・自分が感染しない方法を考える。 ・本時の学習のまとめをする。


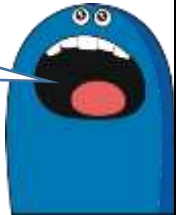
5. 展開例 (3/4)

(1) 本時の目標

- ・ 性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて理解できるようにする。(知識)
- ・ 感染症の予防について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等に係るリスクを軽減する方法を選択するとともに他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 感染症の予防について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>1 性感染症報告数のグラフ(梅毒)を見て気付いたことを発表する。</p> <p style="background-color: orange;">これはある感染症の報告者数の年齢別の年次変化を表したグラフです。気付いたことを話し合ってみよう。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々増えている。 ・10年前の10倍以上になっている。 ・若い人が多い。 ・年寄りが少ない。 ・何の病気だろう。 	<p>○授業前に学校全体で共通理解を図るとともに、学年だより等で学習内容を保護者等に周知し、理解を得るよう配慮する。</p> <p>【参考】性感染症報告数のグラフ(梅毒)は、厚生労働省ホームページ「性感染症報告数」(https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html)のデータを基に作成。</p> <p>○グループになり、気付いたことを書き出させる。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">グループで話し合い、ミニホワイトボード等に書かせましょう。</p> 

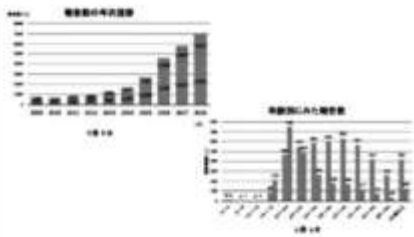
		○いくつかのグループにホワイトボードを使いながら発表させる。
展開	2 学習のねらいを知る。	○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。
	<p style="text-align: center;">性感染症を知り、その予防について考えよう。</p> <p>3 性感染症の疾病概念や種類を知る。</p> <p>性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていること。また、それらの疾病概念や感染経路について。</p> <p>4 性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。</p> <p>性感染症に感染しないための方法や、万が一感染した場合に取るべき行動について。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的接触はしない。 ・正しい知識を持ち、感染しないようにする。 ・怪しいと思ったら、すぐに病院に行く。 <p>病名や症状を重点的に説明するのではなく、性感染症の概念について科学的に説明するようにしましょう。</p> 	<p>○スライドを使い、性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることについて、疾病概念について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染源はウイルス、細菌、原虫など ・感染者の体液に感染源が含まれている。 ・性的接触により人体の粘膜を通して感染 <ul style="list-style-type: none"> ・感染していることに気が付きにくいいため、広がりやすい。 ・日常生活では通常感染しない。 <p>◆【知識・技能】</p> <p>性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。【観察・ワークシート】</p> <p>○グループで話し合いを行い、グループごとに考えをまとめる。</p> <p>◆【思考・判断・表現等】</p> <p>性感染症の予防について、習得した知識を自他の生活と関連付け、疾病等にかかるリスクを軽減する方法を選択しているとともにそれらを他者に伝えている。【観察・ワークシート】</p> <p>科学的根拠に基づき考えられるよう、提示資料等を工夫しましょう。</p>  <p>○性感染症の予防について正しい知識を持つこと、正しい判断力を持つことが大切であることを伝える。</p>
まとめ	5 学習のまとめをする。	<p>○ワークシートに各自でまとめさせる。</p> <p>○性感染症は、身近に迫っている問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを伝え、まとめとする。</p> <p>(本時のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症とは、性的接触によって感染する病気であり、感染していることに気が付きにくいいため、感染が広がりやすい。 ・予防には、感染経路を断つことが大切。

(3) 資料等

① 板書計画


課題①

次の二つのグラフはある感染症の報告者数を表したグラフです。気づいたことを話し合ってみよう。



～本時のねらい～

性感染症を知り、その予防について考えよう。



性感染症で怖いのは…

感染に気づかない

↓

ほかの人に感染を広げる可能性がある

課題②

性感染症に感染しないための方法や、万が一感染した場合に取るべき行動について話し合ってみよう。

～まとめ～

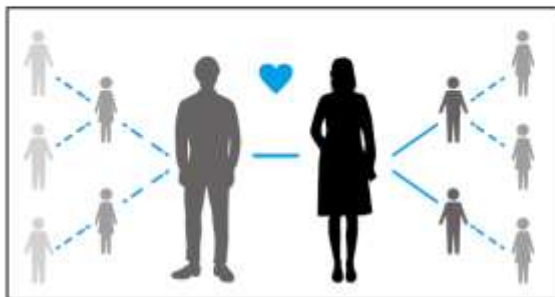
性感染症とは、性的接触によって感染する病気であり、感染していることに気づきにくいいため、感染が広がりやすい。予防には、感染経路を断つことが大切。

② スライド資料

感染症名	主な症状
梅毒	痛みのない腫瘍が性器に形成される 数年～数十年に多様な症状をきたすことがある 妊婦の感染は早産や死産、胎児の以上につながる可能性がある
淋菌感染症・性器クラミジア感染症	淋菌と性器クラミジアは同時に感染していることが多い 男性は排尿痛、尿道のかゆみなど 女性は症状が軽く、無症状なことも多い
性器ヘルペスウイルス感染症	外性器やその周辺のかゆみ、痛み、水ぶくれ、ただれなど 繰り返し再発するが、発病しない場合が多い

治療を受けないで放置すると…

- **不妊症**や**子宮外妊娠**の原因になる
- **胎児へ感染**し、**流産**や**早産**などの原因になる



③ ワークシート

★今日、学習したことをまとめよう。(知識・技能)

感染症の中でも、性的接触によって、感染する病気を()という。

性感染症は、()ため、感染が広がりやすい。

【考えてみよう】(思考力・判断力・表現力等)

性感染症に感染しないためにはどうしたらよいか。また、万が一感染した場合に取るべき行動は何か。

★今日の授業で一番印象に残ったことを書いてみよう

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

中学校段階は性的な発達も著しく、情緒が不安定になるようなこともあり、様々な心の葛藤や遊びに傾斜する心と結び付き、性的な逸脱行動として表れることもあることから、性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、適切な行動がとれるように指導を行うことが大切である。特に、性に関する情報があふれる現代社会にあっては、本題材での学習を踏まえ、自己の行動に責任を持って生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方などと結び付けて指導していくことが有効である。例えば、「思春期の心と体の発育・発達」「性情報への対応」「エイズや性感染症の予防」「友情と恋愛と結婚」などについて、生徒の発達の段階等を踏まえた題材を設定し、資料や専門家の講話等を基にした話合いや討論、専門家の講話を聞くなどの活動の展開が考えられる。特に、性については、個々の生徒間で、発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、集団指導として行う内容と個別指導との内容を区別しておくなど計画性を持って実施する必要がある。

(2) 総合的な学習の時間との関連

感染症は世界的な健康課題の一つである。よって、本単元で学習したことを基に、世界に目を向け、世界の福祉について学習を発展させ、より健康について関心を高めることが可能である。

出典：改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引
文部科学省

中学校における展開例



「大切な心と体を守るために」(特別活動)

1. 題 材 名 「生命の安全教育」

※文部科学省ホームページ「性犯罪・性暴力対策の強化について」教材等より

2. 教育課程上の位置づけ

特別活動 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする
こと。

3. 指導の目標

- (1) 心と身体について、他者との適切な距離感を身に付け、相手の気持ちを尊重した意思決定ができるようにするとともに、適切な距離感が守れない場合取るべき対応について考えさせる。
- (2) 性に関する人権侵害(性暴力や性被害)の例やその背景を知り、自他の大切な心や体を守ろうとする態度を養う。

4. 本時の指導

(1) 指導のねらい

○中学校での性暴力は、加害者に優位性がある状況での被害が多い。また、身近な IT 端末による性情報へのアクセスも容易になり、SNS 等を介した被害も起こりやすい。一方で、ネット空間でのやり取りは、保護者や教師から見えづらいことや、状況が深刻化するまで被害者が相談しづらいことなどから、その危険性や対策について意図的に話題にし、性の加害者、被害者、傍観者にならないための思考や態度を身に付けさせたい。

(2) 学習の流れ

- 「よりよい人間関係」の基本となる「相手との適切な距離感」について考える。
- 「性暴力・性被害」の背景や種類や、起こりやすい状況等について検討し、予防するための方策を考える。
- 加害を見付けた時、被害に遭った時の対応について考える。

(3) 指導上の工夫

- 事例を扱う場合は、生徒の生活実態に合わせた身近なシチュエーションにするなど、参考資料を改編しながら生徒の実態に応じた組み立てとする。
- 教師からの一方向の情報提示ではなく、教師と生徒、生徒同士の双方向での対話が生まれるよう協議やワーク等を取り入れる。(男女共学で行う場合には、グループ分けにあたり充分配慮する。)

(4) 指導上の重点・配慮事項

- 生徒の中には、性の加害者、被害者、傍観者を経験している者もいる可能性があることを考慮し、授

業の中で二次被害を受けることがないよう、配慮する必要がある。当該生徒を把握している場合には、事前に授業への参加方法について十分に相談等をする。

○授業の内容により、途中で気分が悪くなったり、授業後にフォローが必要となったりする場合を想定し、校内の関係者（学年主任、養護教諭、教育相談コーディネータ、スクールカウンセラー等）との連携を図る。

5. 授業展開例

□: ねらい ■: 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容やねらいを知る。 ・思春期にある悩みや不安に向き合い乗り越えるためにも、正しい知識や危機管理能力が必要であることを確認する。 	<p>○学習中に気分が悪くなって退出したい場合は、T2 に申し出て良いこと等を伝える。</p>
	<p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">より良い人間関係に必要な「適切な距離感」について、様々な視点から考えよう。</p> <p>○より良い人間関係のベースに「適切な距離感」があることを理解する。</p>	<p>○距離感の種類を例示することで、目に見えない人との距離感の概念について伝える。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>距離感が守れていないときにどのような感情が起こるのか、また、そうした場合にどのようにすればよいか考えることを通し、自他の大切な心と体を守ることの大切さを理解する。</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・性暴力について知る。 <p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">性暴力がどのような場面や状況で起こりやすいかについて意見交換し、予防するための方策を考えよう。</p>	<p>○性暴力にはどのようなものがあるか問いかけ、生徒に考えさせる。</p> <p>○事例は生徒の実態に応じて準備し、登場人物の同世代とすることで性暴力が身近な問題であることに気付かせる。</p> <p>○SNS等のネット環境を通して、性暴力が起こるリスクが高いことや、性別に関係ないこと、非対等な人間関係が性暴力につながる可能性があること、等を共有する。</p>
<p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">SNSやデートDV等に関する1事例について、ケース学習をしよう。</p> <p>(事例は学級の実態に応じたものとする)</p> <p>○グループやペアで共有し、背景や対処方法について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性暴力を見聞きしたり、被害に遭ってしまったりしたときの対応を身に付ける。 ・学習のふり返りを記入する 	<p>○複数生徒の意見発表</p> <p>○被害に遭った友人から相談されたり、自分自身が被害に遭ったりした場合に、相談できる機関や方法について共有する。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>性の加害者、被害者、傍観者にならないための考え方や態度を養うために、引き続き考えていくことを伝える。</p> </div>	

※参考資料等

- ① 文部科学省 生命の安全教育 指導の手引き（中学校）
- ② 同 中学生（1～3年）向け 教材例

6. 他教科等との関連

特別の教科 道徳

[自主、自律、自由と責任] [節度・節制]・[生命の尊さ]

